

主な出展リスト

- ◆ パブロ・ピカソ画 / 『ブルチネッタ』 衣装 / 1920年 (PA-05)
- ◆ パブロ・ピカソ画 / 『バラード』 衣装 / バレエ・リュス / 公式プログラム / フランス：パリ・シャンゼリゼ劇場 / 1920年 (PR-BROF-17)
- ◆ パブロ・ピカソ&ジャン・コクトー『オルフェ』 / 限定書籍 (サイン入り) / イギリス / 1933年 (AB-25ws)
- ◆ ジャン・コクトー画 / アンナ・バヴロワ / アンティークプリント / フランス / 1955年 (AP-222)
- ◆ ジャン・コクトー画 / ワツラフ・ニジンスキー / 第3回リヨン・ビエンナーレ「コクトーとダンス」展ポスター / フランス / 1995年 (PO-53)
- ◆ マリー・ローランサン画 / シャンゼリゼ・バレエ団 / 公式プログラム / フランス / 1945年10月12日 (PR-108)
- ◆ マリー・ローランサン画 / シャンゼリゼ・バレエ団 / 公式プログラム / フランス / 1946年6月15日・28日 (PR-705)
- ◆ マルク・シャガール画 / ザ・バレエ・シアター / 公式プログラム「レオニード・マシンのバレエ・リュス・ハイライト」 / 1946年7月1日 (PR-249)
- ◆ マルク・シャガール画 / ザ・バレエ・シアター / 公式プログラム / イギリス・ロンドン：ロイヤルオペラハウス / 1947年7月11日 (PR-020)
- ◆ サルバドール・ダリ画 / 『バックナーレ』 衣装・舞台美術 / バレエ・リュス・ド・モンテカルロ / 公式プログラム / 1939~1940年 (PR-BRMC-OF-45)
- ◆ サルバドール・ダリ画 / ストッキングBrayans広告 / バレエ・リュス・ド・モンテカルロ / 公式プログラム / 1945~1946年 (PR-BRMC-OF-56)

同時開催

「兵庫芸術文化センター管弦楽団 2019-2020 シーズン」

本展では、兵庫芸術文化センター管弦楽団(通称:PACオーケストラ)定期演奏会での演目にあわせ、バレエ音楽に関する資料も展示いたします。また、この4月に定期会員券(9回通し券)の発売が始まる「2019-2020シーズン定期演奏会」のご紹介をいたします。PACの14シーズン目となる今回、佐渡裕芸術監督が9月、ブルックナーの交響曲第8番で幕開け、1月には阪神・淡路大震災より25年を迎え、フォーレのレクイエムで魂のこもった音楽をお届けする他、話題に富んだマエストロたちが指揮を執ります。あわせてご注目ください。

兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてオープンした兵庫県立芸術文化センターの専属楽団。芸術監督は佐渡裕。多国籍の若手奏者により編成されアカデミーの要素も持つ。同センターを拠点に多彩な活動を展開。2006年関西元気文化園賞ニューパワー賞、11年神戸新聞平和賞、17年ミュージック・ベンクラブ賞受賞。



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション
2019 企画展

バレエと美術
～ BALLE & ART ～

2019/3/19(Tue.)～2019/4/21(Sun.)

Kenji Usui Ballet Collection

BALLET and ART

2019/3/19(Tue.)～2019/4/21(Sun.)

(休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関典子(せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター

Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。

岡元ひかる(おかもと・ひかる) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター

Hikaru Okamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

山本法子(やまもと・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター

Noriko Yamamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

若林絵美(わかばやし・えみ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター

Emi Wakabayashi (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

後藤俊星(ごとう・しゅんせい) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター

Shunsei Goto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel : 0798-68-0223 (代表) fax : 0798-68-0212

Hyogo Performing Arts Center

バレエ・リュス (Ballets Russes 1909-1929)

1909年、興行主セルゲイ・ディアギレフ(Serge Diaghilev 1872-1929)が設立したバレエ団。「ロシア・バレエ団」という意味のフランス語で、ロシアのバレエや芸術を西欧に紹介するために結成された。ロシアで踊り継がれてきた『眠れる森の美女』などの古典作品から、賛否両論を巻き起こす斬新かつスキャンダラスな作品、そして、最先端の芸術家が結集したコラボレーション作品など、幅広いジャンルを上演し、世界的にバレエ再興の気運を高めた。

1929年、ディアギレフの死と共にバレエ・リュスは解散するが、ダンサーや芸術家たちは、その後それぞれの分野の第一線で活躍した。詩人のジャン・コクトー、作曲家のエリック・サティ、イーゴリ・ストラヴィンスキー、セルゲイ・プロコフィエフ、クロード・ドビュッシー、モーリス・ラヴェル、美術や衣装では、パブロ・ピカソ、マリー・ローランサン、マルク・シャガール、サルバドール・ダリ、ココ・シャネル、などなど……。歴史に名を残す数々の芸術家たちが、ディアギレフやバレエ・リュスとの仕事を通して才能を発揮した。

バレエ・リュスは各ジャンルのアーティストとのコラボレーションを通して、総合芸術としてのバレエを結実し、舞踊界のみならず芸術界全般に大きな影響を与えた。バレエ団の存続は20年ほどであったが、残した功績は計り知れない。



「パレード」(1917)衣装デザイン



「ブルチネッタ」(1920)衣装デザイン



マルク・シャガール (Marc Chagall)

ロシア=フランスの画家。レオニード・マシーン「アレコ」(1942/背景画の一部は青森県立美術館所蔵)、アドルフ・ボルム「火の鳥」(1945)、セルジュ・リファール「ダフニスとクロエ」(1958)の美術を担当。パリ・オペラ座ガルニエ宮の天井画もシャガールが描いた。1962年、レジオン・ドヌール勲章。ロシアのユダヤ人居住区の労働者階級に生まれ、1910年にパリ・モンマルトルの集合アトリエ「ラ・リュッシュ」(蜂の巣)に移り住み、ブレイズ・サンダラル、ギヨーム・アポリネールら前衛詩人、芸術家と親交を結ぶ。ロシアのユダヤ人居住区の暮らし、伝統、家族、農民の生活、恋人たちを、奔放で色彩豊かに描き、詩的で神秘的な幻想性に満ちた作品を制作した。

公式プログラム表紙

パブロ・ピカソ (Pablo Picasso)

スペインの画家。1917年「パレード」でレオニード・マシーン、ジャン・コクトーと共に、大胆で新しいキュビズム形式の舞台・衣装を発表。『三角帽子』(1919)、『ブルチネッタ』(1920)、『メルキュール』(1924)でもマシーンと共同制作する。バレエ・リュスのツアーにも同行し、リハーサル中のダンサーをスケッチするなど密接に関わる。1918年にはダンサー、オリガ・コクワと結婚。1910年代後半から1920年代半ばまで(作風上は新古典主義の時代と呼ばれる)彼女を描き続けた。1924年ニジンスカの「青列車」のために彼の絵画を拡大した緞帳をデザイン。ローラン・プティ「ランデヴー」(1945)、セルジュ・リファール「牧神の午後」(1960)、『イカルス』(1962)の美術も担当。



マリー・ローランサン (Marie Laurencin)

フランスの画家。パブロ・ピカソの紹介でキュビズムを擁護していた詩人ギヨーム・アポリネールと運命的な出会いを果たす。淡いバラ色や青色、平面的なタッチを特徴とした、妖精のような白い肌の少女たちが集う絵画の他、社交界の人々を優美に描いた肖像画で人気を博した。初の舞台美術は1924年プロニスラフ・ニジンスカ振付『牝鹿』。作曲家フランシス・ブーランクの推薦だった。下絵は淡く繊細な色彩と奔放な素描による表現であり、具体的な衣装や舞台装置として再現することは困難を極めた。しかし、ジャン・コクトーが「20世紀の艶なる宴」と称賛したとおり、『牝鹿』は大成功を収め、その後、ローランサンには、バレエや衣装、装飾関係の仕事が殺到するようになった。



LES BALLETS DES CHAMPS-ÉLYSÉES



公式プログラム表紙

ジャン・コクトー (Jean Cocteau)

フランスの作家、詩人、デザイナー、映画監督。1909年の第1回セゾン・リュス以来、セルゲイ・ディアギレフ、バレエ・リュスの取り巻きの一人となり、ミハイル・フォーキン「青神」(1912)、レオニード・マシーン「パレード」(1917)、プロニスラフ・ニジンスカ「青列車」などに台本を提供。ポスターのデザインも手掛けた。ローラン・プティ「若者と死」(1946)もコクトーの台本。舞踊に関する多くの記事や評論を書き、バレエ・リュスの面々を描いた素描や版画も多数ある。フランシス・ブーランクらの音楽集団「六人組」の代表、小説「恐るべき子供たち」、また映画「美女と野獣」などの制作と、多彩な活動を行い、20世紀芸術に大きな足跡を残した。



ワツラフ・ニジンスキーの肖像「コクトーとダンス」ポスター

サルバドール・ダリ (Salvador Dalí)

スペインのシュルレアリスム画家。カタルーニャ地方に生まれ、マドリードの美術学校で細密描写に興味を示す。1929年ルイス・ブニエールとの映画「アンダルシアの犬」をパリで発表、ジョアン・ミロを通じてシュルレアリストたちと交流した。この頃からジークムント・フロイトの『夢判断』に影響を受け、複数のモチーフが重なり合う魔術的な像を描く。レオニード・マシーン「バックナーレ」(1939)、「ラビュリントス」(1941)、『狂えるトリスタン』(1944)、モーリス・ベジャール「ガラ」(1961)などの美術・衣装を担当。1966~1967年ニューヨークのハーネス・バレエとの「限りある宇宙」を計画したが実現せず、魅力と謎に満ちたデザインが多数残されている。



「バックナーレ」のためのデザイン